

2016年(平成28年)2月5日 (金曜日)

需要に応える第二斎場

党市議団
が視察 環境、防災にも配慮

名古屋市

公明党名古屋市議団(金庭宜雄団長)はこのほど、新設された「名古屋市立第二斎場」(同市港区)を訪れ、関係者から利用状況を聞いた。

同斎場は近代的な設備を取り入れ、周辺環境にも配慮した施設で、昨年7月に供用開始。建物は鉄筋コン

クリート造り地上2階建てで、延べ床面積は約1万5000平方メートル。火葬炉30基、お別れ室(告別・拾骨室)30室、休憩室などが備わり、駐車場(180台分)も完備。災害時には津波避難ビルとしても活用される。この斎場の特長は、火葬炉1基につき、1室のお別れ室が設置され、告別・火葬・拾骨の一連の儀式が行えること。また最新の公害防止技術を取り入れ、環境への負荷を軽減する火葬炉

を導入。このほか、敷地内に「みどりの丘」と名付けられた、高さ約10メートルの緑地帯を確保し、周辺環境との調和を保っている。

これまで市内には市営斎場が1カ所あったが、2014年度の火葬件数が2万2000件を超えるなど、今後の火葬需要にこたえられなくなることが想定され、新しい斎場の建設が急がれていた。実際に、供用開始以降、第二斎場の火葬実施件数は毎月増加し、約1900件(昨年11月末時点)に上っている。

党市議団は毎年の予算要望などを通じ、①故人との最後のお別れにふさわしい建物にすること②ダイオキシン類の対策③地域の防災拠点としての機能を持たせること——などを要請していた。



第二斎場の「お別れ室」で担当者から話を聞く党名古屋市議団(左側)